

福島県南相馬市で少子化問題に向き合ってきた、えにしづくり担当係長・渡部貴光氏と、ヒューレックス(株)（仙台市青葉区）の浅野有史金融機関サポートセンター営業開発部長兼マリッジ(株)しあわせ部長が対談。少子化対策としてマリッジの結婚相手紹介サービスを導入した経緯と成果、および今後の活動方針について話を聞いた。

浅野 婚姻数・出生数の減少と、それに伴う少子高齢化の加速は、日本全体の最重要課題です。南相馬市の現状と課題をお聞かせください。

渡部 南相馬市は、家族や友人と共に暮らし続けられる「100年のまちづくり」をコンセプトに市政運営を行っており、人口の維持は地域存続の根幹を成す課題という視点で取り組んでいます。

しかしながら1990年に約1万6000人だった15歳未満の子どもは2020年には5099人に減少。人口に占める15歳未満の割合も8・8%と、福島県内13市で最も低くなっています。出生数も減っており、10年は579人でしたが22年には269人となり、40年には190人になると推計しています。

少子化対策は喫緊の課題であり、課題解決に婚活支援は不可欠要素であることから、20年度より「えにしづくり担当係長」という少子化対策専任のポストを新設。22年度に「みらいづくり1・8プロジェクト」を立ち上げ、市の総力を挙げ緊急的な少子化対策の推進に取り組んでいます。

浅野 地方自治体の婚活支援が出会い目的から成婚目的に変化しておりますが、南相馬市はいかがですか。

渡部 16年度より本格的な婚活支援としてイベントなどを開催してきましたが、この9年間で成婚件数は8組。そのうち市内在住は11人。十分な成果とは言えない状況です。その要因はさまざまですが、男女の比率がいびつな点も大きいと捉えています。

ます。20年の国勢調査によると、市内に住む20代・30代の6割近い

5500人が未婚者で、そのうち男性が3500人で女性が2000人。そのため婚活イベントの参加者を市内限定で募集す

「一年成婚サポート事業」の導入

浅野 弊社の「一年成婚サポート事業※」を21年度より導入いただき、すでに6人がご成婚されています。導入のきっかけをお聞かせください。

渡部 結婚に関する意識を把握するため、市内の20〜39歳の独身男女を対象にアンケート調査を実施したところ、結婚しないのは日常生活の中で出会いの

と男性が多く集まってしまう、出会いの場としての平等性に欠けることが課題としてありました。



マリッジ(株)
しあわせ部長

浅野 有史 氏

あさの・ゆうし 1963年生まれ。宮城県石巻市出身。東北学院大学卒業後、山一証券(株)入社。未公開企業の上場支援などを行う。その後、ヒューレックス(株)金融機関サポートセンター営業開発部長。マリッジ(株)しあわせ部長を兼務。

スガマッチしないと、いくら頑張ってもスルーされてしまう。婚活を目的とした支援をイベント一本で進めていくのは難しいと考えるようになりました。

浅野 いろいろ勉強もされたそうですね。

渡部 ある専門家は少子化対策を川に例え、婚活支援を上流に、子育て支援を下流に置いて考えるべきだと論じていました。子育て支援はフォーカスされやすく意識も向きやすいのですが、上流の婚活支援でつまづいてしまうと、いくら下流で予算や制度を充実させても効果が出にくくなると、そのような意見に触れて少子化対策は幅広い事業を総合的に進める必要があるという考えに至り、婚活支援に子育て支援、さらには移住定住施策といったものまで幅広く事業を進めるようになりました。

若い方々が求めているニーズと、我々が提供しているサービス

※南相馬市では期間および名称を変更して実施。誌面ではマリッジの「一年成婚サポート事業」で統一。

The
地方創生

結婚支援で少子化対策を強化

福島県南相馬市 えにしづくり担当係長兼

子育て支援拠点整備推進担当係長 渡部 貴光氏



福島県南相馬市 えにしづくり担当係長兼子育て 支援拠点整備推進担当係長 渡部 貴光 氏

わたのべ・たかみつ 1976年生まれ、福島県南相馬市出身。東北学院大学卒。99年旧鹿島町入庁。2019年南相馬市こども未来部発足によりこども部門に携わり、20年えにしづくり担当係長、23年子育て支援拠点整備推進担当係長を兼務。

なりがちですが、直接会ってやりとりしたり、利用者の生活スタイルに合わせてオンラインでもサポートしていたただけるので、その点も満足度が高くなるのでは

た。婚活支援についてイベント以外に取り組めることはないかと思案していたときにご紹介いただいたのが、御社の「一年成婚サポート事業」でした。

浅野 少子化対策の根幹である『結婚』にフォーカスし、この一年成婚サポート事業を導入されたというわけですね。

渡部 そうですね。特に御社の成婚へ至るまでの平均活動期間が6・9カ月という実績と、当市の市長からも「婚活は短期集中のほうがいい。」という点が合致したこと、また、独身男女の比率がいびつであるという本市の状況を踏まえ、市外も含めた出会いの機会づくりが重要

と考えたためです。

選んでもらえる魅力あるまちづくりを

浅野 「一年成婚サポート事業」は他の自治体の施策と比べて、どのような特徴や工夫があるとお考えですか？

渡部 御社の「一年成婚サポート事業」は、一過性のイベントでのカッティングと違い、成婚までサポートし結果が分かります。また、利用者の手続きが簡素になること、プライバシーへの配慮がなされていることで、イベントに参加するのを敬遠していた方で婚活を希望する方にも的確に行き届いた支援が

できると思っています。

それから、コンシェルジュさんのサポートはとても大きいと思います。我々が利用者の方に直接お会いする機会はないのですが、御社のサポート内容として出会いや交流などに不慣れな方へのコミュニケーションの個別講座や、服装などのアドバイスがあるため、安心感と信頼感があると評価しています。AIを活用している婚活相談やマッチングアプリでは利用者の質問に応じるだけの一方的な対応に

と思います。女性に対して男性からのお見合いの申し込みが多いのも良かったですね。

浅野 参加された方の声で、印象的なものがあれば教えてください。

渡部 過去のイベントに参加されたものの残念ながら結婚につながらなかった方が、「一年成婚サポート事業」を利用し成婚された事例が結構あります。それは担当者としてうれしいですね。この事業は、結婚という目的意識がはっきりしている方が参加しますので、少子化対策として多くの自治体においても有効と感じています。

浅野 少子高齢化に影響を与える具体的な目標や取り組み案があればお聞かせください。

渡部 婚活支援も大事ですが、女性が暮らしやすい、自己実現しやすい地域を作っていく必要があると考えています。男女比率のいびつさは前述しましたが、例えば進学などを機に18歳で遠くに出ていっても男性の約半分は戻ってきます。一方で女性が戻るのには3分の1か4分の1くらい。戻りたいという要望はあるのに戻れない現実も把握しており、婚活と子育ての両立支援はもちろんのこと、雇用

面も含め、女性に選んでもらえる、帰ってきたいと思ってもらえる、魅力あるまちづくりが非常に重要だと認識しています。しかし行政だけでは解決しきれない部分もあり、地域や企業の方々と連携していく必要性も感じています。

浅野 結婚を機に転職が必要になるケースがあります。そこで、マリッジ株式会社グループ会社で転職支援を行っているヒューレックス株式会社は、こうした方々の転職を無料でサポートしています。結婚後の新しい生活に適した職場を紹介し、スムーズなキャリアアチェンジを実現。結婚と転職を一貫して支援することが可能です。人生の大きな決断である結婚と転職が最高のものになるよう、地域の皆様と共に未来を描く支援をしてまいります。本日はありがとうございました。

